



# アジャイルは本当に 日本のソフトウェア開発を 変えることができるか？

株式会社永和システムマネジメント  
株式会社チェンジビジョン  
平鍋健児



# 自己紹介



健康長寿の福



## ● (株)永和システムマネジメント

- 福井市（本社）、上野東京（支社）、沖縄（事務所）
- 「金融」、「医療」、「組込みシステム」開発
- 「Ruby と Agile」を使ったふつうのシステム開発

## ● 株式会社チェンジビジョン

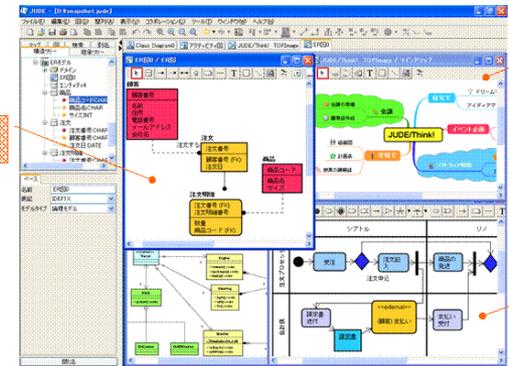
- 福井市（開発部）、上野東京（本社）
- astah\* (旧：JUDE) の開発



## ● 平鍋健児

- UML+マインドマップエディタ astah\* の開発
- 要求開発アライアンス、理事
- 翻訳、XP関連書籍、『リーン開発の本質』『IMPACT MAPPING』等多数。
- 著書『アジャイル開発とスクラム』、『要求開発』『ソフトウェア開発に役立つマインドマップ』

ERD



# 『アジャイル開発とスクラム』



- 顧客・技術・経営の3者をつなぐために、アジャイルと日本経営の接合点を探る
- 海兵隊の組織とアジャイル
- 知識創造プロセスとアジャイル
- 実践知リーダーとアジャイル
- 富士通・楽天・リクルートの事例
- Jeff Sutherlandインタビュー

平鍋健児＋野中郁次郎著

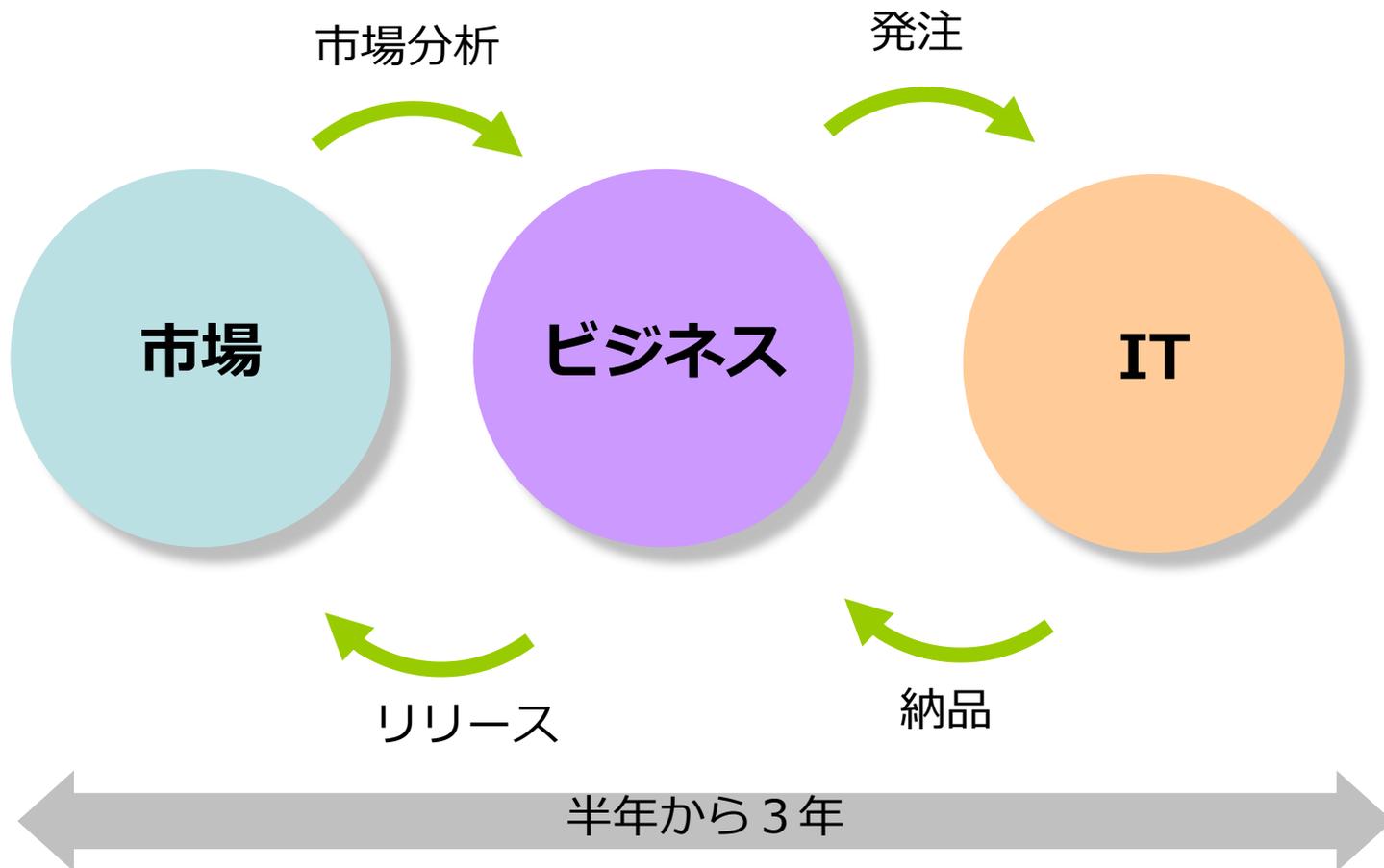
# アジェンダ

- アジャイルってなんだろう？
- 私とアジャイル
- プロジェクト・ファシリテーション
- 日本とアジャイル
- 私の会社とアジャイル

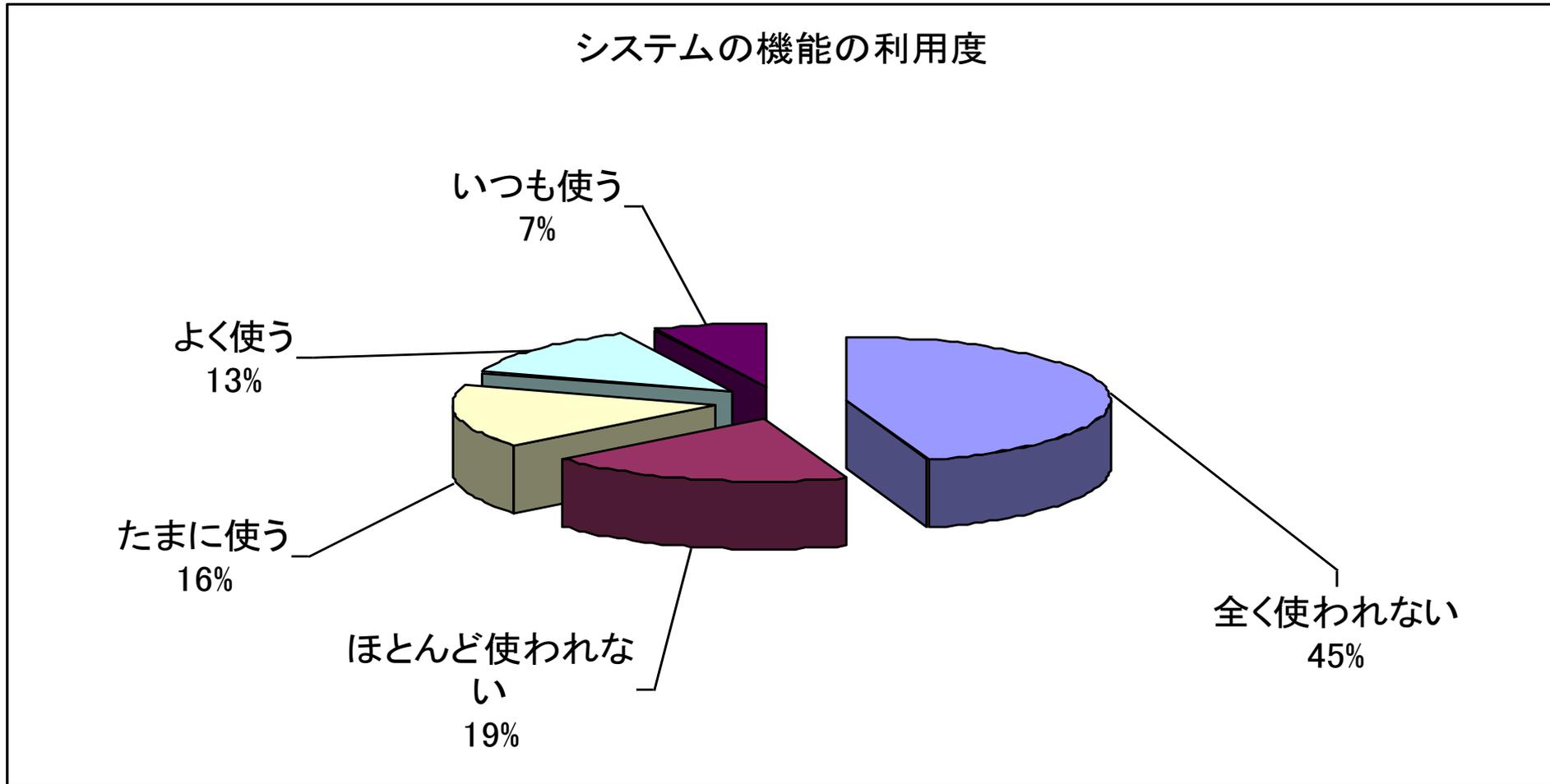
アジャイルってなんだろう？

---

# ミッション・リスク分割型ビジネスと ウォーターフォール型開発（従来型）

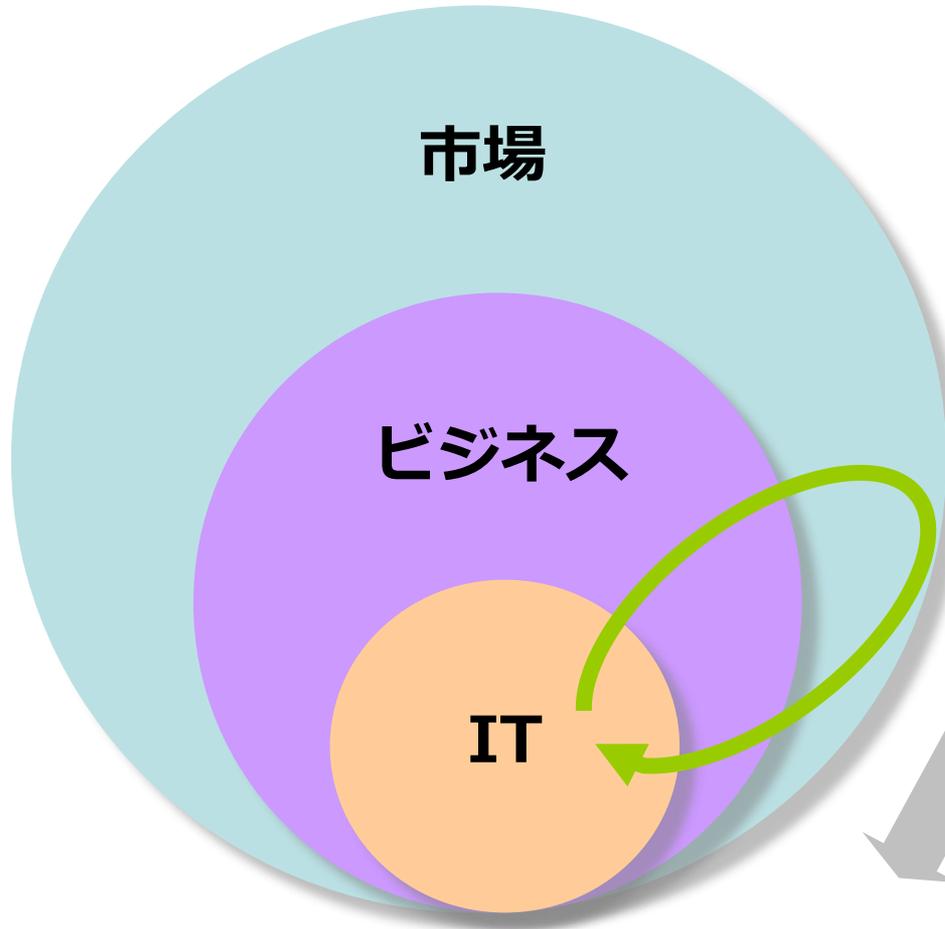


# 従来型の問題 = 要求の劣化



- Standish group study report in 2000 chaos report

# ミッション・リスク共有型ビジネスと Agile型開発



ビジネスとITが一体になった「OneTeam」を作り、ミッションとリスクを共有する。やってみて、結果から戦略を作りながら進む。

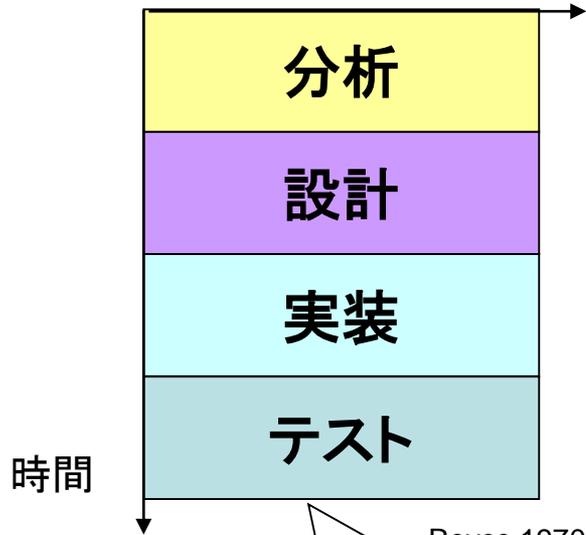
アジャイル開発  
とは何か?

スクラム  
とは何か?

# プロセスとしてのAgile

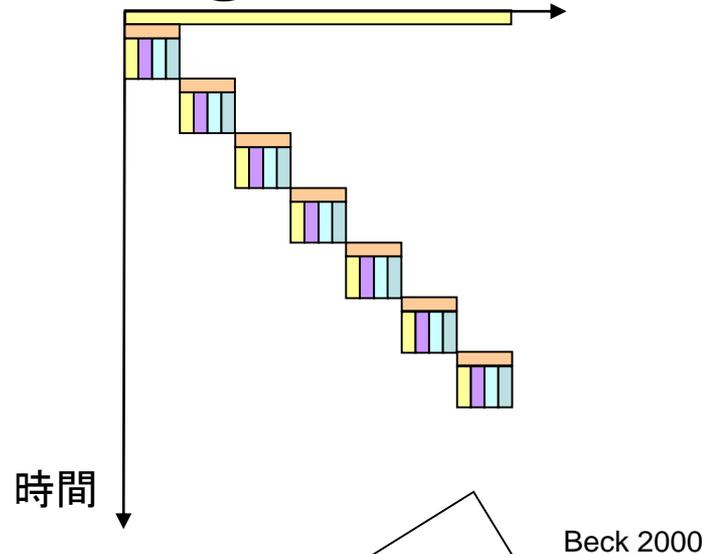
- 短いサイクルで、分析、設計、実装、テストを並列に行う
- タイムボックス型、進化型開発

## Waterfall 要求(スコープ)



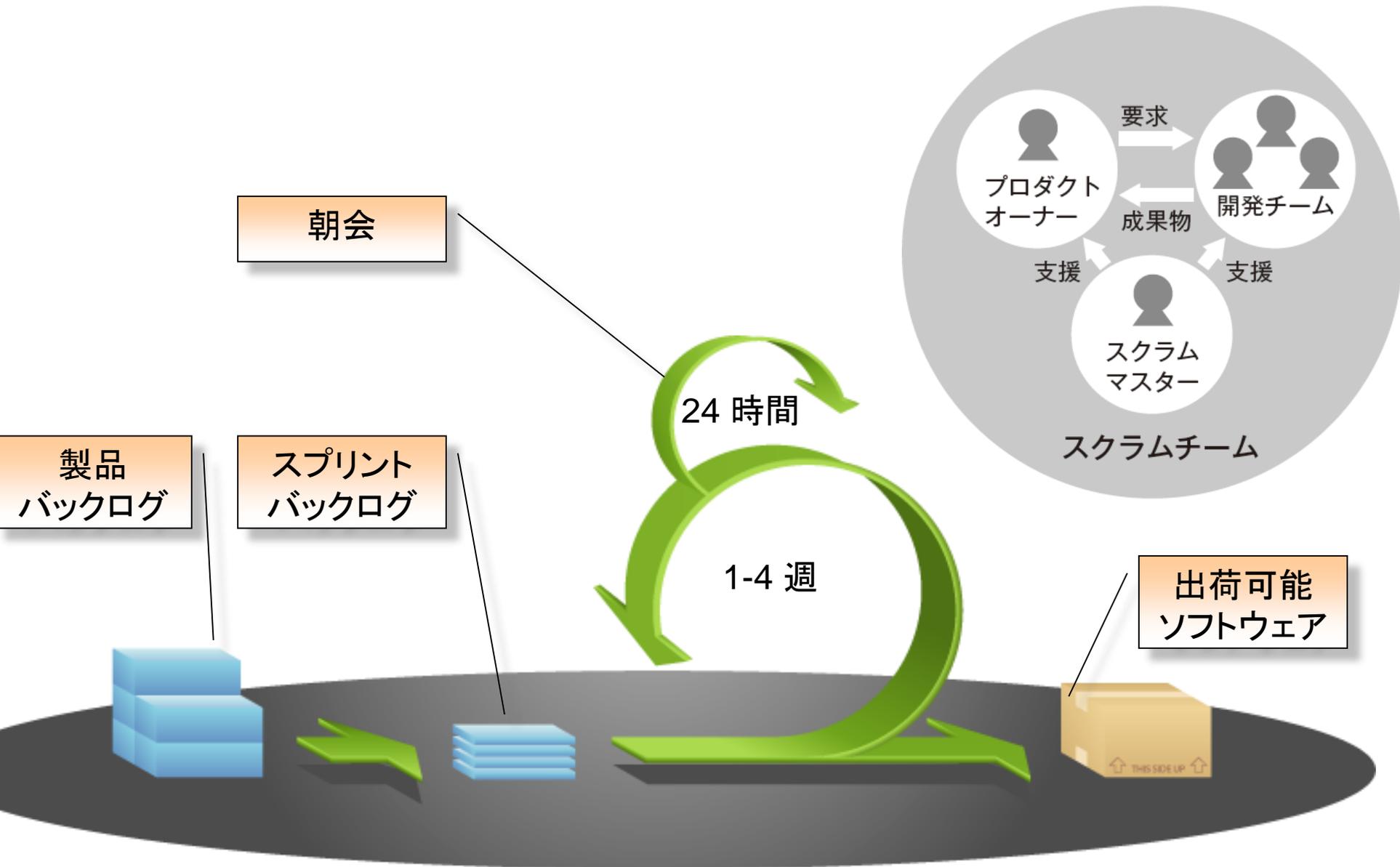
最後に動くものができる

## Agile 要求(スコープ)



動くものが徐々に  
できあがり、成長する

# スクラムのフレームワーク



今の仕事で  
使えないじゃん!?

「今の仕事を、今よりうまく  
くすることはできる。」

と言った人がいた。



# 個人的アジャイル史

---

# 個人的アジャイル史

- 2000年 XP-jp を作る
- 2003年 XPアンギャ
- 2003,4年 ADC2004に参加

いったん挫折…

- 2004年 プロジェクトファシリテーション
- (2008年 Agile2008 (Dear XP))
- (2009年 第一回 Agile Japan)

Index: [\[Article Count Order\]](#) [\[Thread\]](#)

Date: Wed, 5 Jul 2000 14:25:37 +0900

From: 平鍋 <niranabe@....jp>

Subject: [XP-jp:00592] XP プレ・オフミーティング

To: extremeprogramming-jp@....jp (extremeprogramming-jp ML)

平鍋です.

- > 本格的なOFF会企画のためのミーティングと称して、第1回OF
- > F会をレストランXPでやりませんか。

なぜか私は今週東京にいます. ということで, 本格的なOFF会企画のためのプレミーティングを, レストランXPにて行います.  
待ち合わせは,

今週金曜, 夕方7:00に渋谷駅のマアイ像

とします. 人数がすくなくれば飛び込みでOKと思いますが, 多くなると予約が必要になるので, 明日午前中までに, 参加したい方はこのメールにリプライください.

幹事は, ハタさん, おねがいしま〜す. (お任せっていったよね ^^;)

じゃば

# エクストリーム プログラミング

Kent Beck・Cynthia Andres 共著  
角 征典 訳

Extreme  
Programming  
Explained

Embrace Change,  
2nd Edition

OHM  
Ohrsha

今買って読むならこれ!

extreme  
Programming  
explained

EMBRACE CHANGE

Kent Beck

# Agile Development Conference 2004



# AntiPractice #1: Brownie's works ("The boss refactored my code!")

Story

①



**JS**  
(a freshman)

**MN** (a freshman)

**IN** (a senior programmer)

②



③



④



# 個人的アジャイルの歴史

- 2000年 XP-jp を作る
- 2003年 XPアンギャ
- 2003,4年 ADC2004に参加

いったん挫折…

- 2004年 プロジェクトファシリテーション
- (2008年 Agile2008 (Dear XP))
- (2009年 第一回 Agile Japan)

# アジャイルは日本でできるのか？

- 自分一人でも、技術的なこと(自動テストやリファクタリング)はできる。
- 自分がリーダーのプロジェクトなら、なんとか工夫してできるが、、、
- 契約やリリースはそれでも難しい。
- 当時のほとんどのプロジェクトには届かない。
- しかも、炎上プロジェクトがたくさん…



なぜオレは  
あんなムダな  
時間を……

# アジャイルでなくてもいいのでは？

- アジャイルの「要素」をつかって

いきいきと仕事がしたい…

お客さんと喜び合える仕事がしたい…

と気持ちを切り替える。

プロジェクトファシリテーション(PF)

---

# 現場力を高める見える化手法 プロジェクトファシリテーション

## ～モチベーションアップの ツールと場づくり～

株式会社永和システムマネジメント  
株式会社チェンジビジョン

平鍋 健児



# PFのなりたち

## アジャイルソフトウェア開発

XP2

APM

リーン

Crystal

Project  
Retrospectives

## トヨタ生産方式

見える化

Pull生産

多能工

かんぱん

あんどん

## ファシリテーション

Skilled  
Facilitator

Participatory  
Decision-Making

プロジェクトファシリテーション

価値

原則

実践

今回の「見える化」  
のお話+ $\alpha$

POINT

PF=アジャイル+TPS+ファシリテーション。ソフトウェア開発以外に適用可能。

プロジェクトの  
見える化から  
はじめましょう

# 見える化/透明性

- 「最新の正の情報」が、「一箇所に」、「大きく」書かれていて、それを、「両チームのメンバー」、「審判」、「観客」が見ている。「次の行動」を誘発する。



**POINT**

全ステークホルダーが、行動を起こせるような、確かな、分かりやすい情報源

# タスクかんばん

- 作業の見える化
  - ToDo(未実施)  
Doing(実施中)  
Done(完了)  
で管理。
  - 各自の作業を指示しなくても、毎朝自発的に作業開始。
  - フォーマットは徐々にカイゼン。



タスクかんばんの例  
(協力：チェンジビジョンastah\* チーム)

※バーンダウンチャーターなどと共に、とにかく、壁に貼る。「情報発信器」とも呼ばれる。

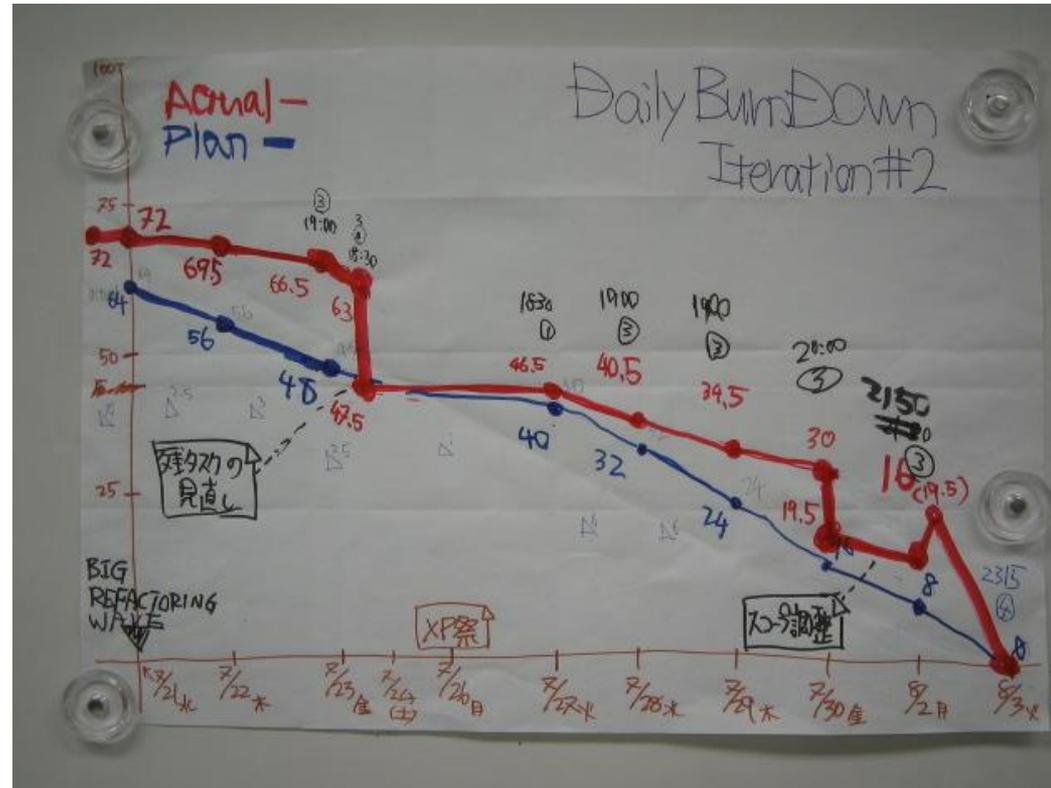
**POINT**

作業の見える化は、「タスクかんばん」で行なう。

助け合う

# バーンダウンチャート

- 進捗の見える化
  - バーンダウン(下向き)
  - タスクかんばんと連動
  - 中間成果物では計測しない。
  - メールでエクセルシートを配布したり、サーバに置いたから見てね、はナシ。



バーンダウンチャートの例  
(協力：永和システムマネジメント：チーム角谷)

**POINT** 全体進捗は、「バーンダウンチャート」で見える化、繰り返しのリズムづくり

スルーしない

# 日本からも海外へ発信

**InfoQ** update

224,529 Dec unique visitors



- Register
- Login
- About us
- Personal feed
- Home

### Your Communities

- Java
- .NET
- Ruby
- SOA
- Agile
- Architecture

Search

### Featured Topics

[REST & Web Architecture](#)

Tracking change and innovation in the enterprise software development community

Article

print

## Visualizing Agile Projects using Kanban Boards



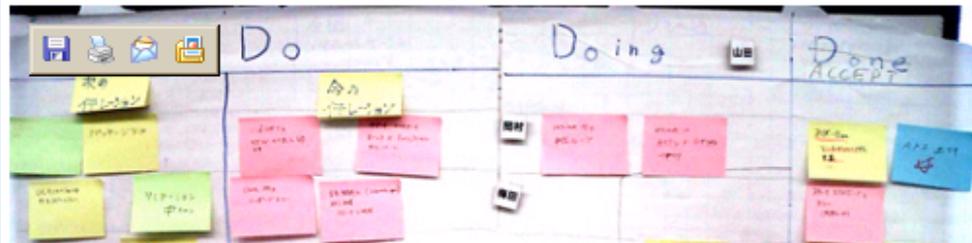
Posted by [Kenji Hiranabe](#) on Aug 27, 2007 04:55 AM

Community [Agile](#) Topics [Collaboration](#), [Agile Techniques](#), [Teamwork](#)

### Visualization in Agile Projects

XP has a practice called "informative workspace" where you can see how the project is going on at a glance [Beck05]. A primitive way of doing this is just putting story cards or task cards on the wall. Other graphs and charts on the wall are sometimes called "information radiators" [Cockburn01] or "Visible Big Charts" [Jeffries04] and have become very common in today's agile project room facilities. Below, I show examples of the visualizations found in agile teams in Japan.

The first example in *Figure 1* is a **Task Kanban Board** named after the "Just-In-Time" (JIT) production method used in the TPS (Toyota Production System) [Poppendieck03, 07].



### About the Author



Kenji Hiranabe is the CEO of Change Vision, Inc. He is the creator of JUDE, a UML and MindMap editor software, and has translated the books *Lean Software Development*, *XP Installed*,

Version 1.

Exclusive

Eva

Evan Phoenix discusses modern REST loosely based on Smalltalk-architecture is to build latest REST implement

Intro

NetKernel software that combines properties and Unix resources article pro NetKernel

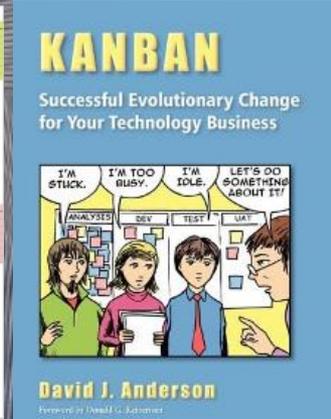
Web on F

IBM Fellow WebSphere Cuomo to REST and Zero, IBM

# “Kanban, Successful Evolutionary Change for Your Technology Business”



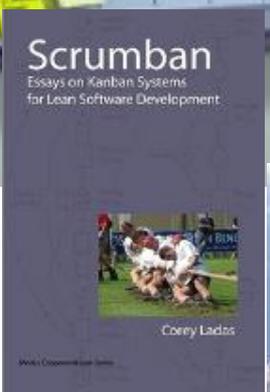
<http://www.agilemanagement.net>





Corey Ladas

<http://leansoftwareengineering.com/2007/10/27/kanban-bootstrap/>



現場で  
工夫する

# 朝会

- 仕事の明確化

- 自発的なサインアップ
- 昨日やったこと、今日やること、問題点、の3点のみ。
- かんばんの前で、行なう。
- 朝の仕事はじめが重要！
- スタンドアップで15分。
- 一定時刻、定位置、短時間



朝会の例(協力:チェンジビジョンastah\* チーム)

PF実践編:朝会ガイド

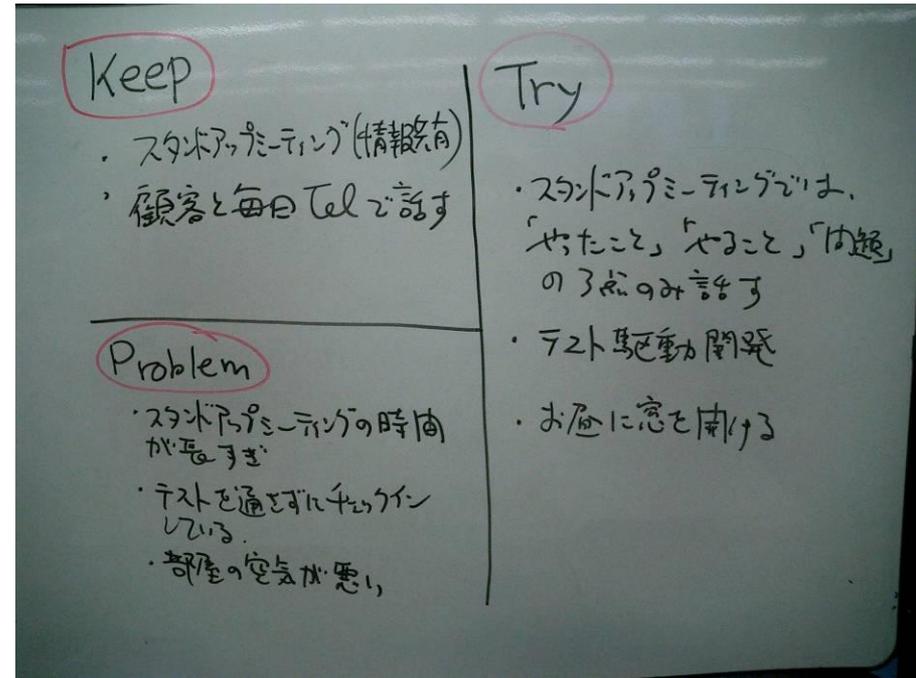
<http://www.ObjectClub.jp/community/pf/>

**POINT**

毎朝、「かんばん」の前で全員で短い会議を行ない、リズムをとる。

# ふりかえり(1)

- カイゼンの気づき
  - Keep(良い点)  
Problem(悪い点)  
Try(次回挑戦)  
を出す。
  - 全員で意見を出し、暗黙知の共同化と形式知化を行なう。「名前付け」
  - 「課題-解決リスト」とは違う。
  - とにかく、カジュアルな雰囲気  
で全員発言することで、チーム  
の安全性を確保する。
  - 「問題vs私たち」の構図になる  
ように。



ふりかえりシート of 例

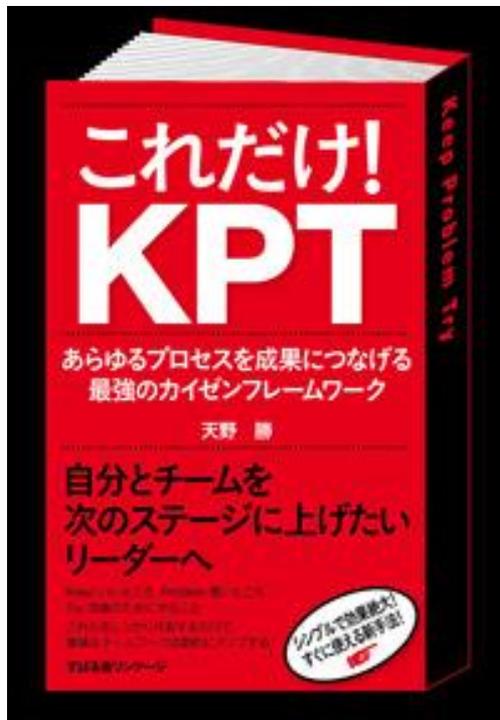
実践編: ふりかえりガイド

<http://www.ObjectClub.jp/community/pf/>

POINT

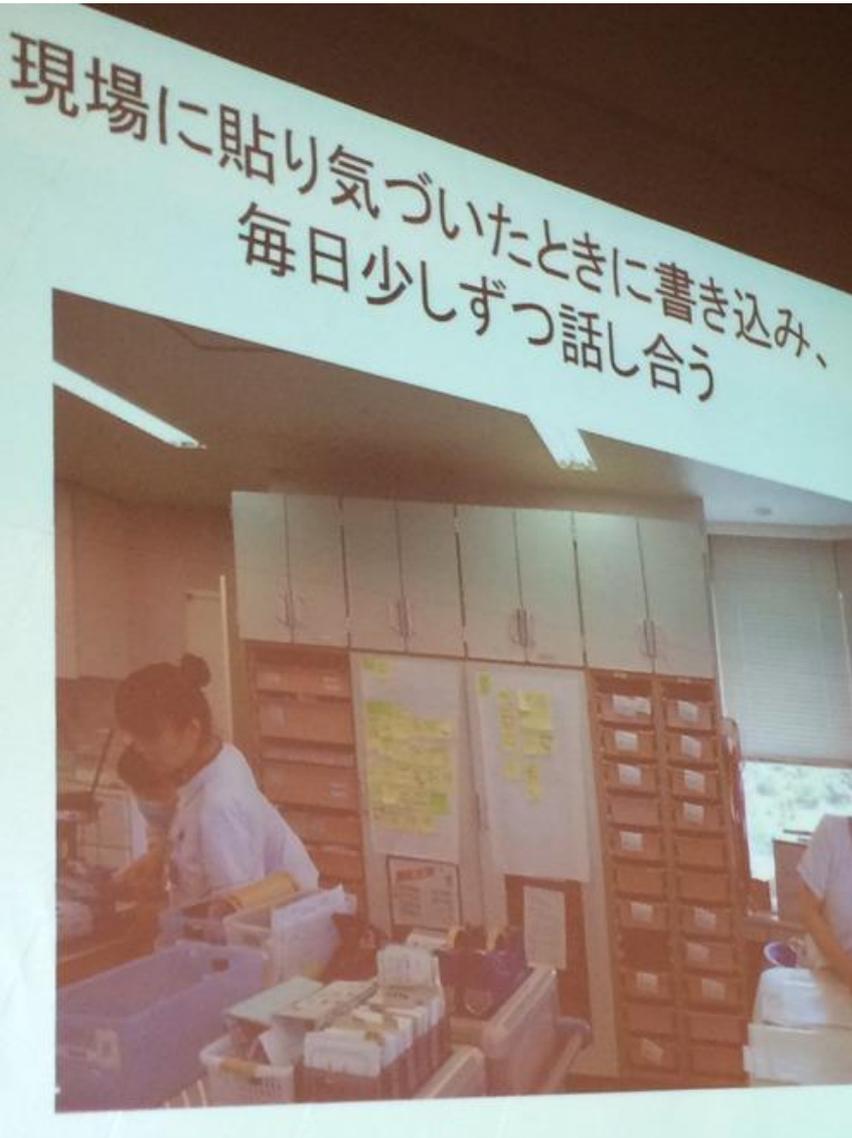
カイゼンの「気づき」を「ふりかえり」で得る。

# KPTA けぶた .club



# esm-conference ブログより

## やわたメディカルさんの事例



“現場では、このようにKPTを張り出し、気づいた時に付箋をはり、毎日お昼に話し合って、すぐアクション、というサイクルで回っていたとのこと。24時間/365日とまらない現場は、このように手軽に導入しやすく、当事者同士で話し合っ解決策を見つける仕組み（問題vs私たち）がフィットしたとのこと。”

# にこにこカレンダー

- チームのムードを見える化する。
- 帰宅時の気分を、
  - 気持ちよく仕事が終われた
  - フツウ
  - ダメダメ
- チームが自発的にモチベーションマネジメント



※(株)富士通ソフトウェアテクノロジーズ

実践!!IT屋のトヨタ生産方式—あるソフトウェア会社の挑戦



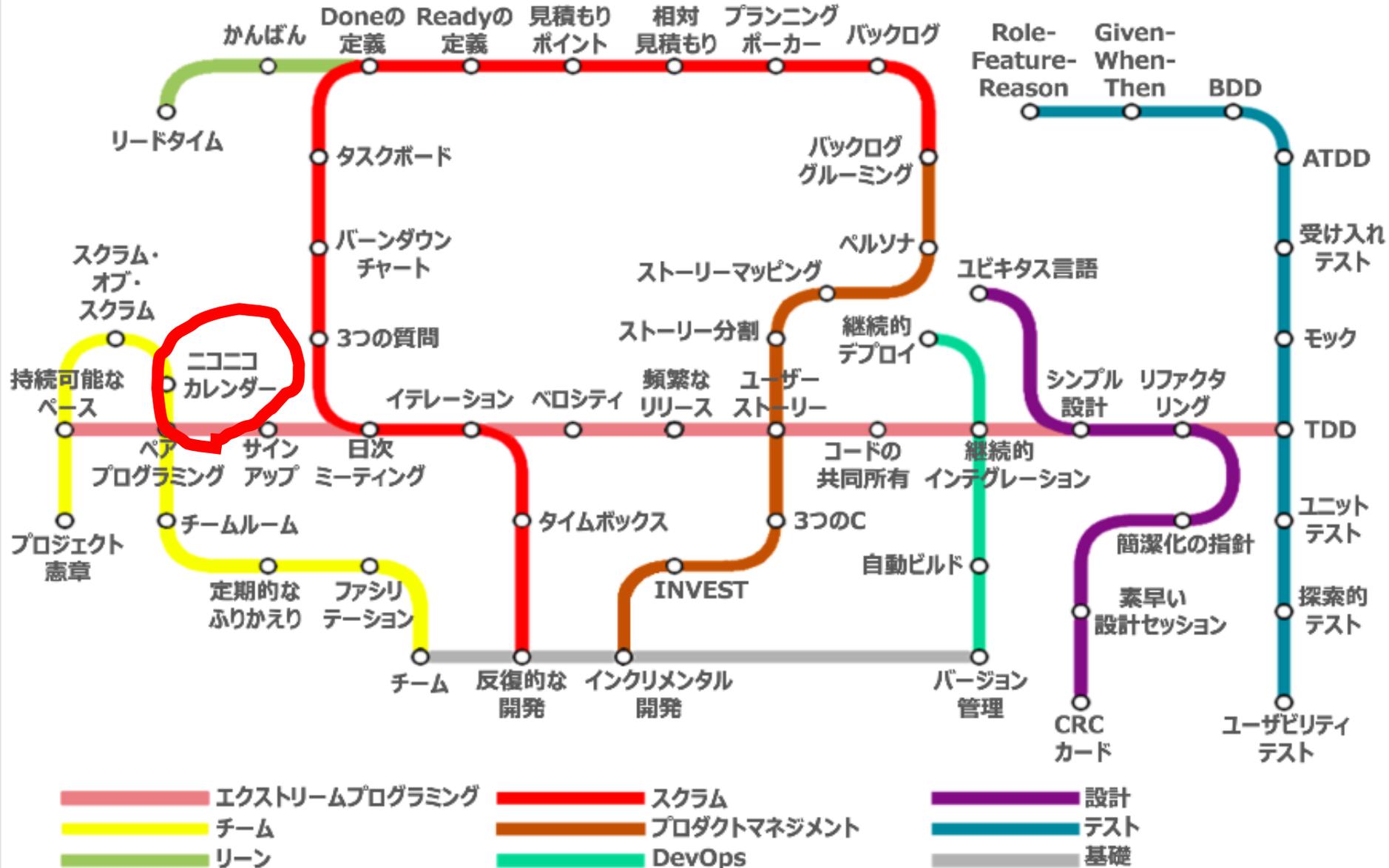
POINT

チームムードは、にこにこカレンダーで見える化

# ブラジルで見たニコカレ

Sensações de produtividade  
04/07 a 08/07

	2 <sup>a</sup>	3 <sup>a</sup>	4 <sup>a</sup>	5 <sup>a</sup>	6 <sup>a</sup>
MUITO!					
MÉDIO (NORMAL)					
POUCO...					



# 目的：なぜPFが重要か

- プロジェクトを成功させるために。
  - 行動を起こさせるために。
  - ひとりひとりの能力を最大限に発揮させるために。
  - 個人の総和以上の価値をチームとして発揮するために。
- エンジニアとして、よりよい人生の時間をすごすために。気づきを得るために。
  - 仕事の中で、プロジェクトを越えて続く人間関係を得るために。
  - やりがいと笑顔と信頼関係で、プロジェクトに取り組むために。
  - Joy of Work (参照: 吉田耕作, Deming)
  - エンジニアの人生の質 Quality of Engineering Life

## POINT

PF は、ソフトウェア開発を成功と、エンジニアのやりがいの両立を目指します。

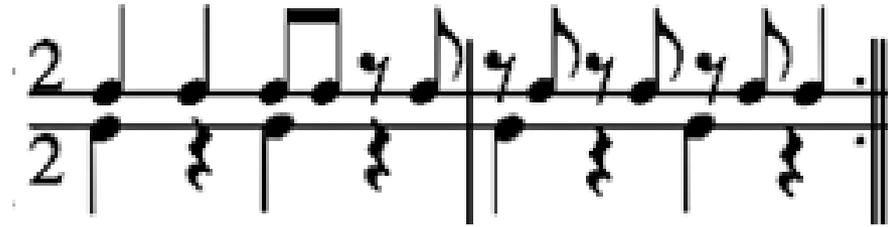
# PFの5つの原則

- 見える化(Management by Sight)
  - 目に見えるようにして、行動につなげる。
- リズム(Rhythm)
  - 人間活動として定期的なリズムを設計する。
- 名前づけ(Name and Conquer)
  - 気づいた概念に名前をつけておく。
- 問題 vs. 私たち (Problem vs. us)
  - 「問題」と「人間」を分離する。
- カイゼン (Kaizen)
  - 継続的に、今の自分たちにできる、小さいことから。

# リズム

- リズムを「デザイン」する

- 四半期、月、週、日
- 会議や成果物のタイミング
- 日次のテスト
- 日次の朝会（毎朝 10:00）
- 週次の会議（毎週金曜は。。。）



- 朝会、ふりかえりのタイミング

リズムがチームのハートビート

- リズムが行動の「搬送波」

# 名前付け

- 「気づき」をキャッチ
- ナレッジを,
  - 定着
  - 他のチームに伝播
- 例：
  - 「今日のお仕事」  
(by 坂田さん)
  - 「ぬかどこ」  
(by 倉貫さん)
  - 「にこにこカレンダー」



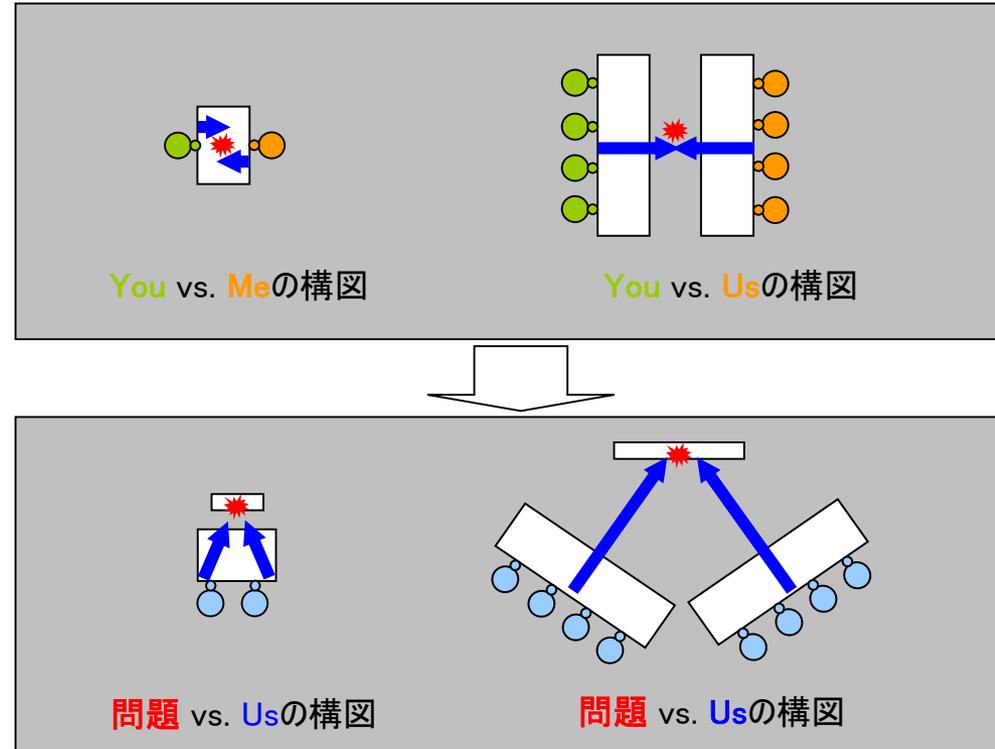
名前は大切（写真協力：平塚市博物館）

## POINT

名前をつけないと、「気づき」が逃げて行っちゃう！

# 問題対私たち (Problem vs. Us)

- ともすると、議論は You vs. Me, You vs. Us になりがち。
- 「問題」と「人」とを分離
- Problem vs. Usにもちこむ。
  - ホワイトボードを使う
  - 座り方を替える
  - ペアプログラミング



**POINT** 不毛なゼロサムゲームから、生産的な議論へ向かうカギ.

# カイゼン

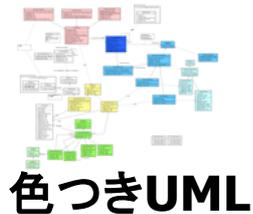
- 大きな改革でははじまらない
- 小さなカイゼンから
- 今の自分たちでできること
- 来週からできること
- よくなっていくことを体感しよう
- ふりかえり、が強力な武器
- For the better tomorrow
- 明日はきっと今日よりも、いい日に決まっている



## POINT

継続的に、今の自分たちでできるカイゼンを。うまくいったら自分たちをホメよう。

# 全体構成



- 見える化
- リズム
- 名前づけ
- 問題対私たち
- カイゼン

1週間

計画  
半日

イテレーション開発  
一日の繰り返し

ふりかえり  
半日



要求

タスク

タスク

タスク

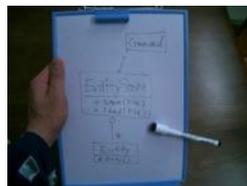
タスク



朝会、かんばん



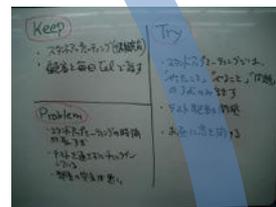
バーンダウン



ペアボード



あんどん



ふりかえり



マインドマップ



にこにこカレンダー



SKMS

# 佐賀県庁の事例(1)

- ニコニコカレンダー

**ニコニコカレンダー**

名前	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(月)
		😊	😊	😊	😊	
	😊	😊	😊	😊	😊	😊
	😞	😞	😊	😊	🍵	
	😊	😊	😞	😞	😞	😞
	😞	😞	😊	😊	😊	😞
	😊	😊	😊	😞	😞	

1. 記入内容  
今日一日の自分の気分を表現してください。  
自分の中での小さなふりかえりをしてみましょう。そしてシールに自分の気持ちを託しましょう。

2. 記入のタイミング  
各自で帰庁する際に、記入してください。

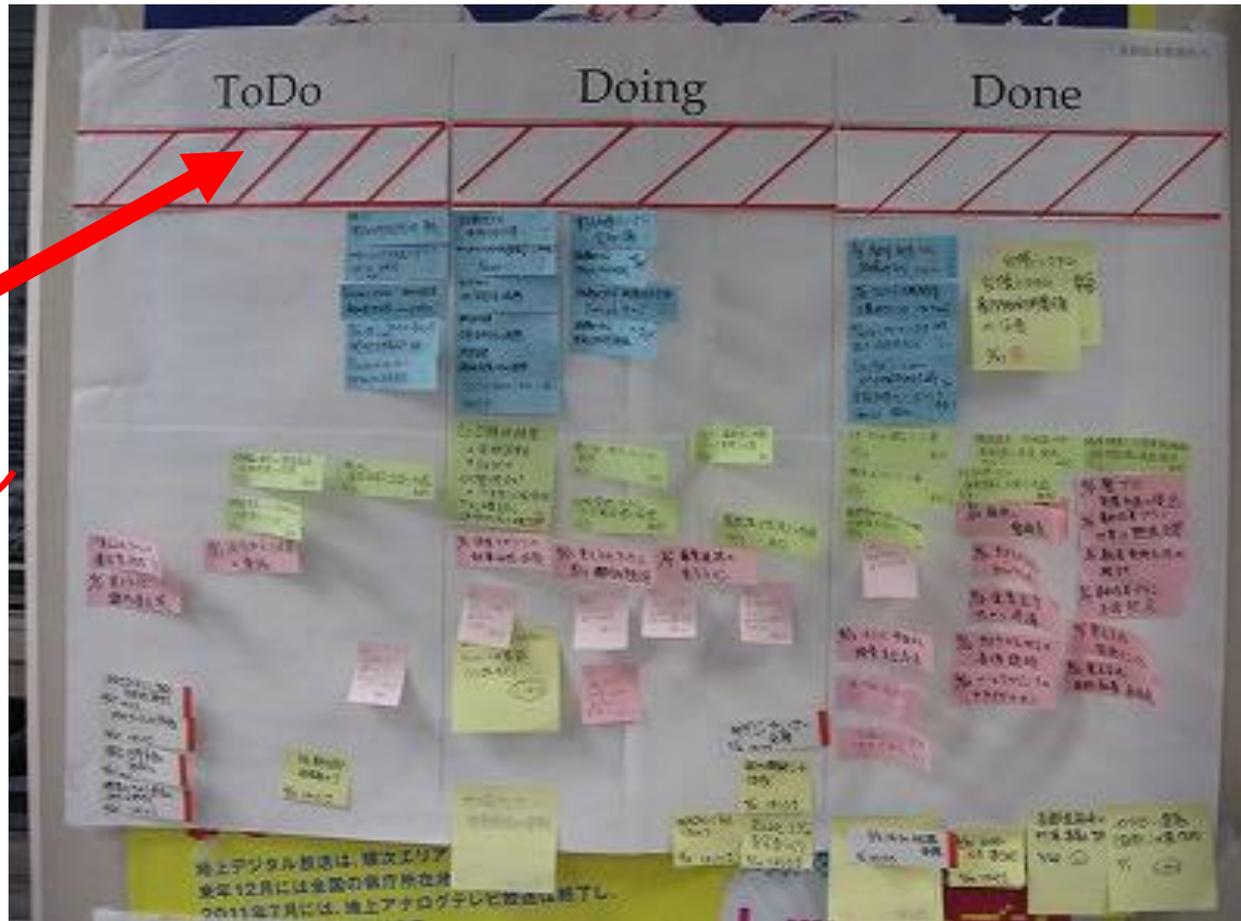
3. 記入方法  
顔の色の種類は3色です。  
・黄色(良好・楽しい)  
・赤(普通・ぼちぼち)  
・青(不調・悩んでいる)

※ 蛍光ペンを用意していただきます。色を塗った後に、サインペンで、表情を書き込んでください。

(協力:佐賀県庁  
東 泰史さん)

# 佐賀県庁の事例(2)

- タスクかんばん



危険  
ゾーン

(協力:佐賀県庁  
東 泰史さん)

# 佐賀県庁の事例(3)

- 朝会

副知事



(協力:佐賀県庁  
東 泰史さん)

ぜひこの資料を見てください。(有名資料)

<http://www.slideshare.net/hiranabe/agilejapan2010-saga-prefecture-hiqashi>

日本のアジャイル？

---

# 非ウォーターフォール型開発の 普及要因と適用領域の拡大に関する調査

～非ウォーターフォール型開発の普及要因の調査～

## 調査概要報告書

<https://www.ipa.go.jp/sec/softwareengineering/reports/20120328.html>

## より抜粋して紹介

## ①ソフトウェア開発プロジェクトの比較【特徴的なデータ】

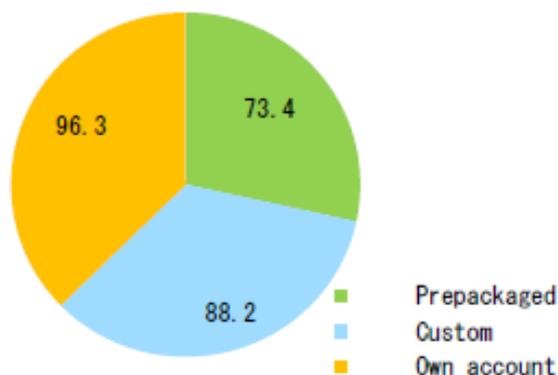
米国では、ソフトウェアに対する投資は「**自社開発(内製)**」「**市販パッケージソフトの利用**」が約2/3をしめている。(下図「米国民間部門におけるソフトウェア投資」参照)

さらに、他国に比べて多くのIT技術者がユーザ企業に所属している。(下図「IT技術者の所属先」参照)

✓米国のプロジェクトの形態の特徴は、3割が**内製していること**

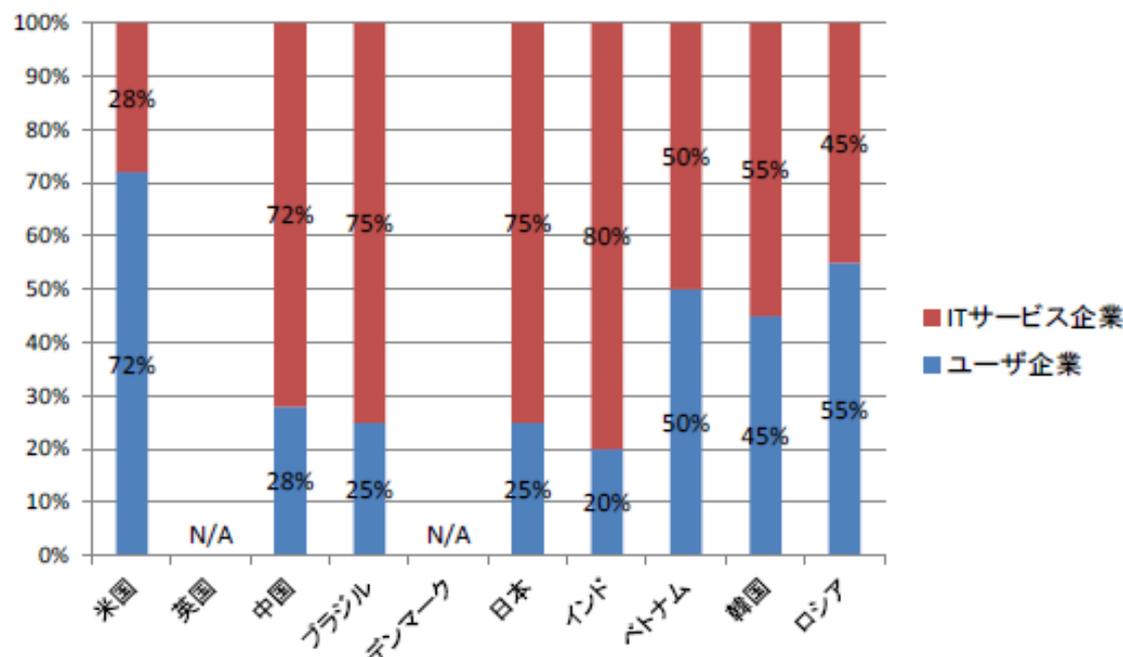
### 米国民間部門におけるソフトウェア投資

単位(Billions of dollars)



Prepackaged : パッケージソフトを購入  
Custom : 外部発注作業  
Own account : 自社開発ソフト

### IT技術者の所属先



出典:「Bureau of Economic Analysis  
<http://www.bea.gov/national/xls/soft-invest.xls>」

出典:「グローバル化を支えるIT人材確保・育成施策に関する調査」概要報告書 2011年3月 (IPA)

# 国別スクラム人口

- Certified Scrum Master (CSM)
- Certified Scrum Product Owner(CSPO)

必ずしも認定では分らないが、傾向として掴むと。。。

# 【参考】アジャイル型開発の普及状況(2)

## Scrum Master等の推移から見るアジャイル型開発の普及状況

- アジャイル型開発方法論で最も有名なScrumに関する資格者が、2005年以降急増
- 米国の取得者が群を抜いて多く、ついで英国が多い。日本は極めて少ない。

出典: Scrum Allianceによる協力

Scrum Master等の人数の経年変化

	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	TOTAL
CSM	5	344	907	2,647	6,841	12,857	22,514	26,886	34,601	43,028	150,630
CSPO					83	503	1,891	3,514	5,325	8,629	19,945
CSP	1	2	14	26	38	116	264	366	534	501	1,862
TOTAL	6	346	921	2,673	6,962	13,476	24,669	30,766	40,460	52,158	172,437

単位(人)

略称説明

- CSM (Certified Scrum Master)  
➢ チーム全体の支援者
- CSPO (Certified Scrum Product Owner)  
➢ 製品の責任者
- CSP (Certified Scrum Professional)  
➢ スクラムの実践者

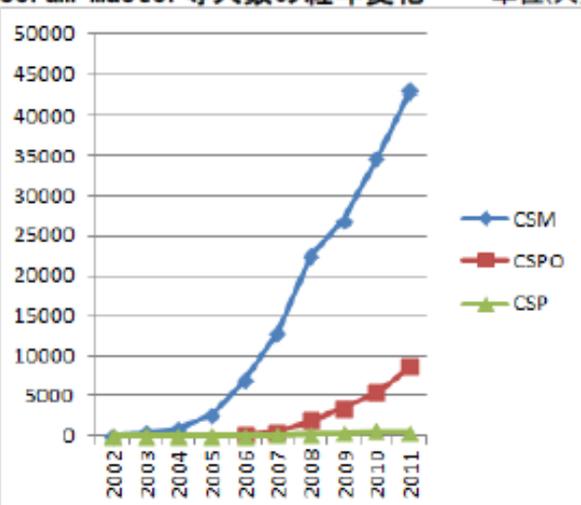
各国の現在のScrum Master等人数 (2012年3月)

	米国	英国	中国	デンマーク	ブラジル	日本	TOTAL
CSM	67,000	11,800	3,800	3,700	4,600	350	91,250
CSPO	8,000	1,800	400	750	900	120	11,970
CSP	1,100	0	30	30	60	6	1,226
TOTAL	76,100	13,600	4,230	4,480	5,560	476	104,446

単位(人)

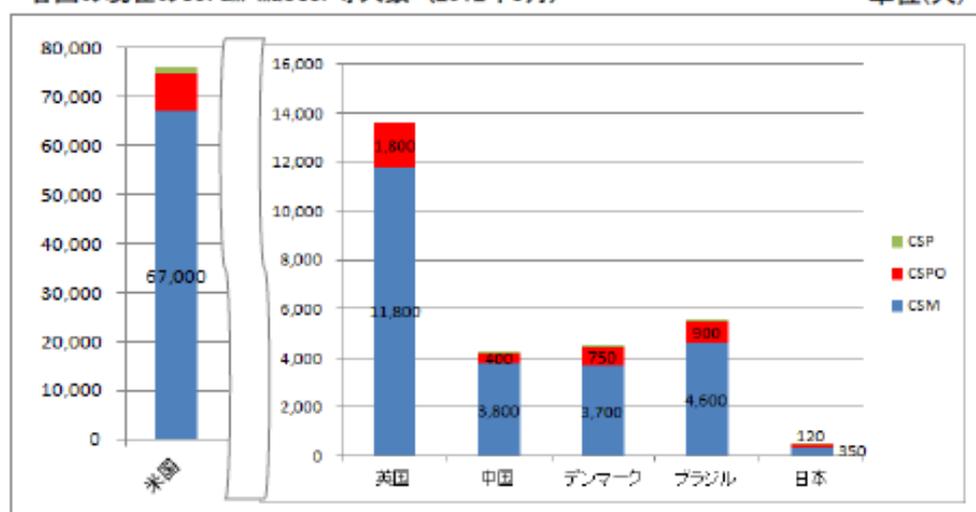
Scrum Master等人数の経年変化

単位(人)

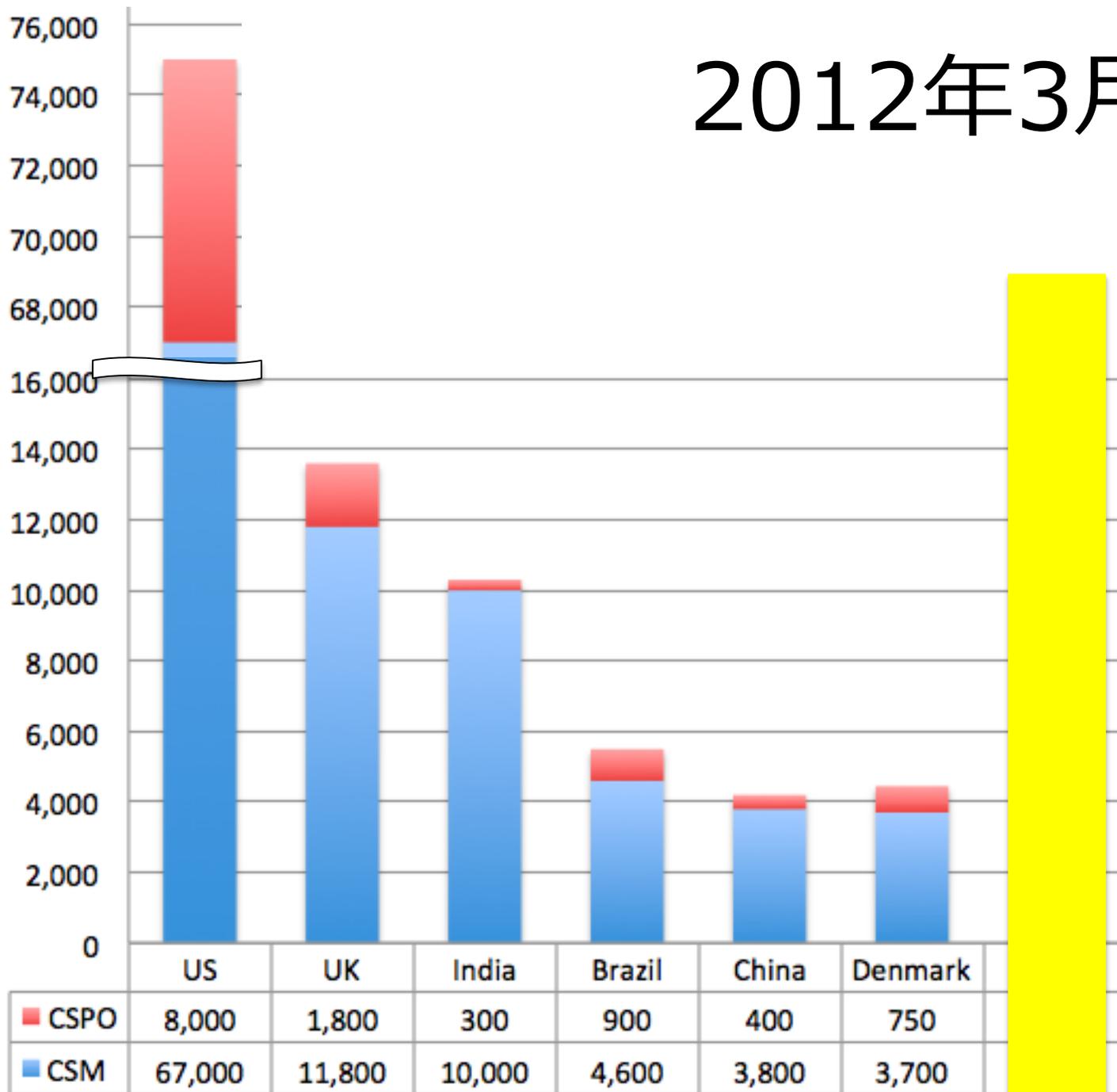


各国の現在のScrum Master等人数 (2012年3月)

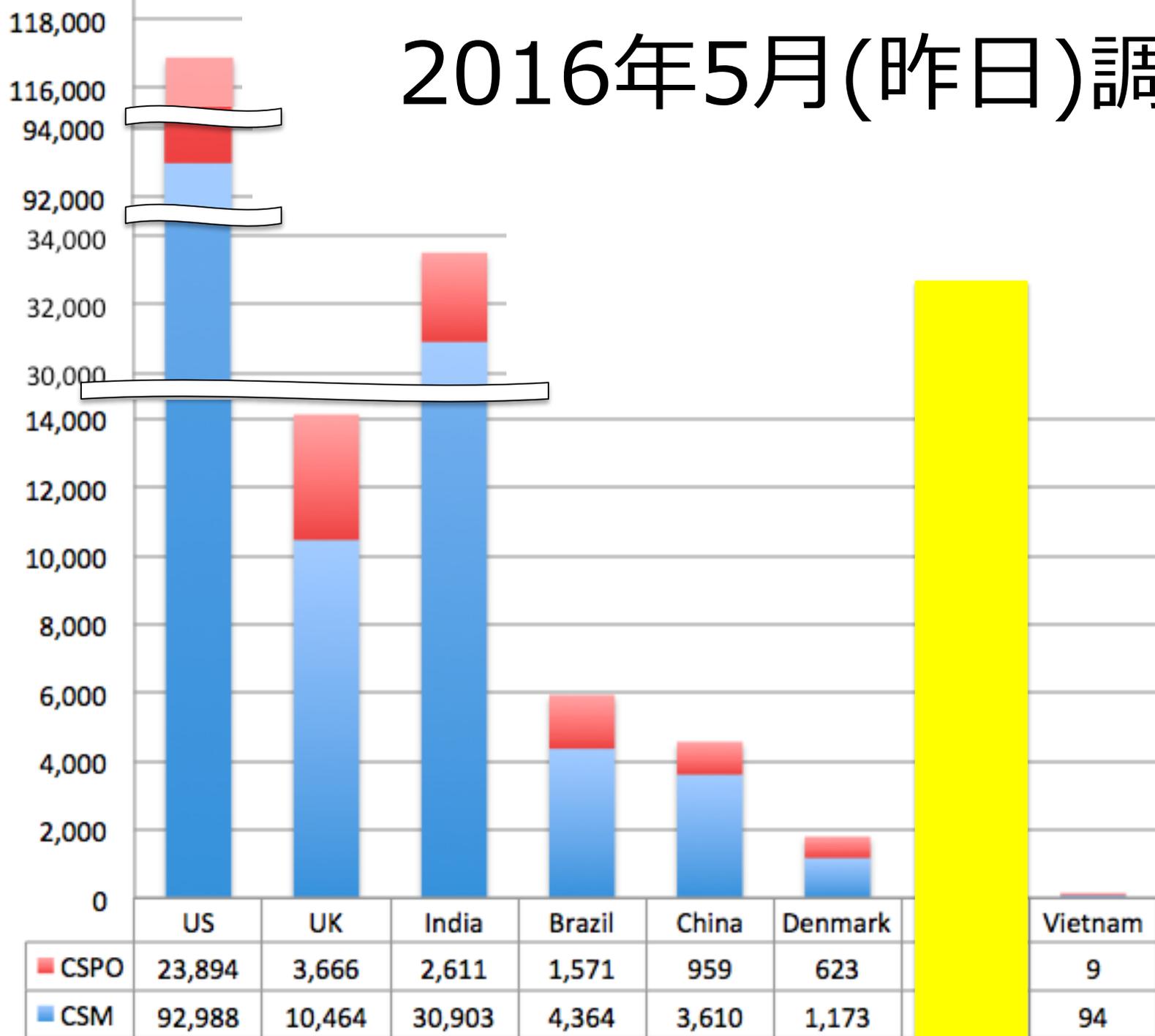
単位(人)



# 2012年3月調べ



# 2016年5月(昨日)調べ

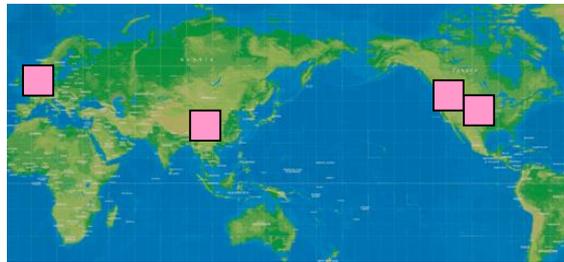
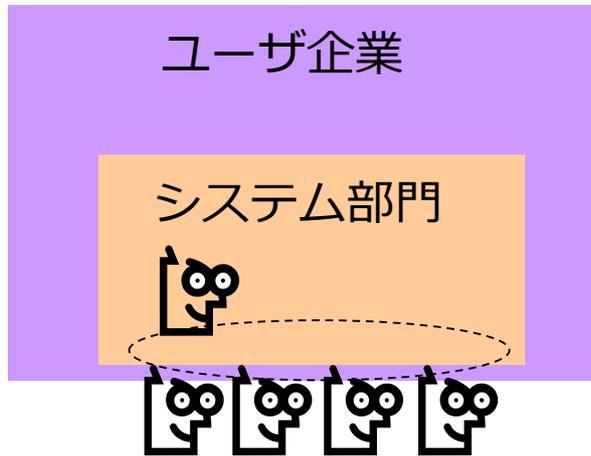


# スクラム認定状況(2013-16)

- PO の数がグンと伸びている。(米・英)
  - ビジネス側に確実に訴求している。
- 日本はようやくデンマークに追いつく。
  - (デンマークの人口は日本の 4.3 % だっ!)
- ベトナムで盛り上がっているように思ったが、まだまだ。
- 「有効」認定者数なので、減る場合もある。

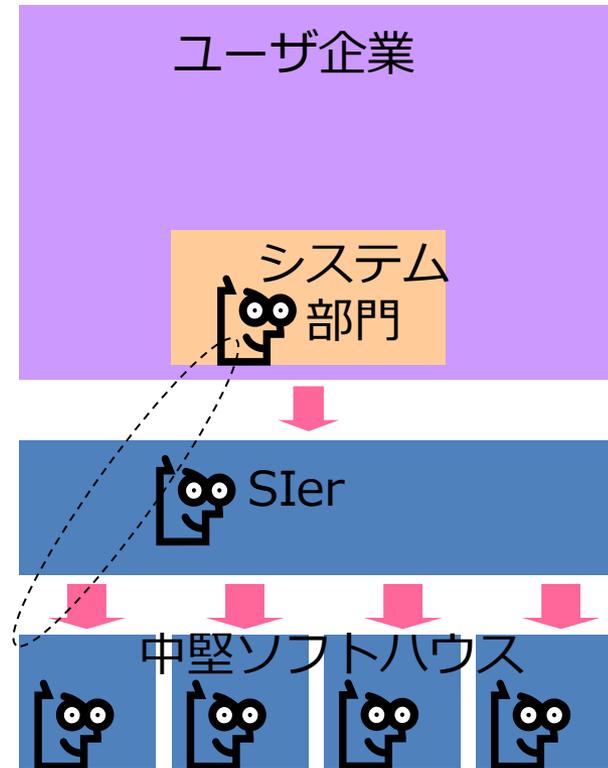
# Agileのスケール方向

米国大企業の構造



横にスケールするAgile

日本の構造



縦にスケールするAgile

契約を挟み多段の下請け構造の中で、どうしたらゴールを共有できるだろう？

# IT人材の流動性

IPA

IT人材白書  
2014

「作る」から「育てる」へ、「使う」から「活かす」へ  
～価値を生み出すプロの力～  
IPA 情報処理学会 編纂 2014年12月

Webビジネス企業での中途採用が圧倒的に増えている

人材流動！！！！

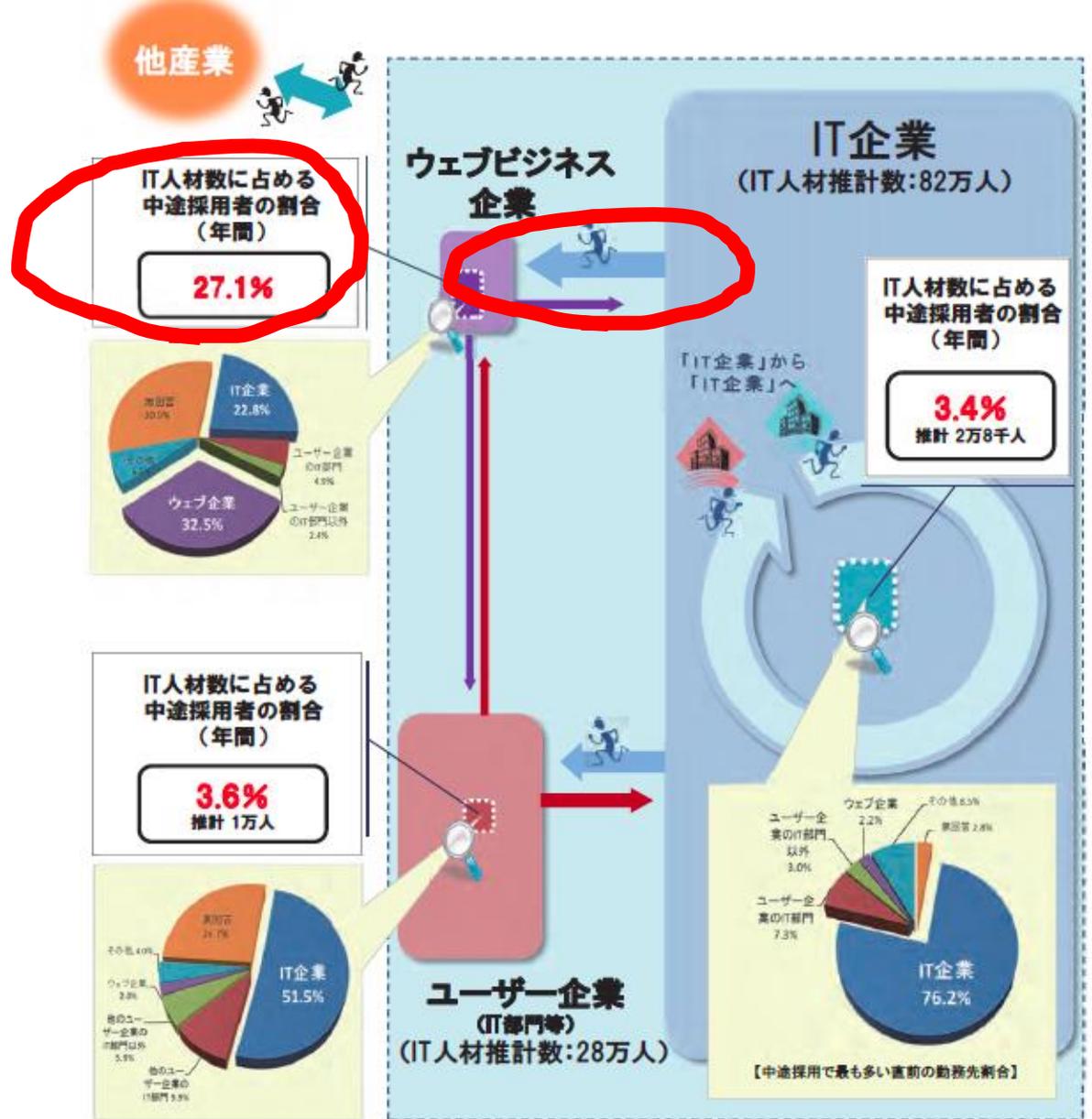


図2-1-60 IT人材流動のイメージ図

IT人材白書2014: <http://www.ipa.go.jp/jinzai/jigyoyou/about.html>

考察: <http://qiita.com/kenjihiranabe/items/05ac9fb741edc1ee5276>

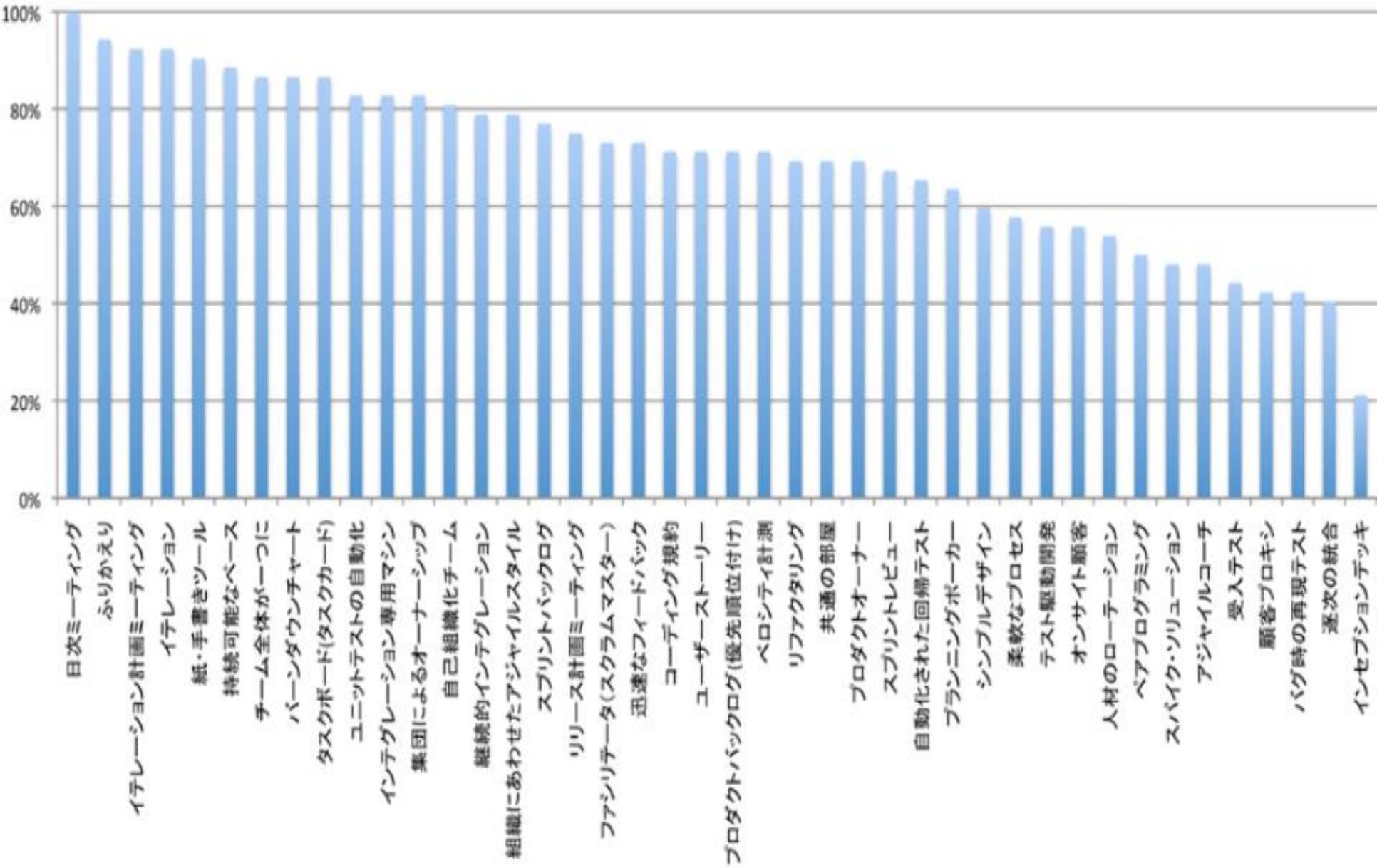


図 4-1 プラクティス適用数

# 中大規模事例での工夫一覧 (各工夫については【別紙】を参照のこと)

## 中大規模特有の工夫

- **組織体制**
  - チーム間ローテーション
- **コミュニケーション**
  - 段階的朝会
  - チーム跨ぎのふりかえり
- **展開**
  - 漸進的な人数増加
  - 漸進的な展開
  - 社内勉強会
- **分散拠点開発**
  - 同一拠点から分散へ
  - TV会議
- **アーキテクチャ**
  - 組織の共通基盤アーキテクチャの利用
  - アーキテクチャについての教育
- **システム分割/インテグレーション**
  - 同じリズム

- **品質**
  - 第三者テスト
- **部分適用**
  - 必要な部分のみ適用
  - 疎結合なチーム
  - 工程の見える化

## 小規模とは逆の アプローチをとる工夫

- **アーキテクチャ**
  - 最初のアーキテクチャ構築
  - アーキテクチャ専門チーム
  - 運用保守チーム
- **品質**
  - テスト・フェーズ

## 小規模と同様だが 特に注意して実施する工夫

- **コミュニケーション**
  - 完全透明性
- **展開**
  - パイロット導入
  - 認定研修・コンサルタントの利用
- **分散拠点開発**
  - チケットシステム
  - リアルタイムチャット
- **アーキテクチャ**
  - アーキテクチャの改善
- **システム分割/インテグレーション**
  - 疎結合で分割
  - 早期からのインテグレーション
  - 継続的インテグレーション
- **品質**
  - 重視するビジネス価値
  - ビジネス価値の変化
  - タイムボックス優先の品質
  - 自動単体テスト

私の会社とアジャイル

---

# 全社員へアジャイルの話をしたい

## なぜこの話をするかやるか

- アジャイルといっても、「プロセス」でなく、「考え方」（マインド）と「プラクティス」を全社に広げたい
- 私が社長になり、もっと社員と、大切にしていることを話をしていきたい。
- 受託開発の「領域」と「やり方」の変化  
（スキルシフト、マインドシフトの必要性）  
– SoRからSoEへ（あとで説明）

# アジャイルの魂

チームでお客様に価値を届けよう、  
いきいきと仕事をしよう

2016/4/1, 5/6  
永和システムマネジメント  
平鍋健児



今の仕事で  
使えないじゃん!?

「今の仕事を、今よりうまくすることはできる。」

と言った人がいた。



# アジャイルソフトウェア開発宣言

私たちは、ソフトウェア開発の実践  
あるいは実践を手助けをする活動を通じて、  
よりよい開発方法を見つけだそうとしている。  
この活動を通して、私たちは以下の価値に至った。

重要

超重要!

プロセスやツール よりも 個人と対話を、  
包括的なドキュメント よりも 動くソフトウェアを、  
契約交渉 よりも 顧客との協調を、  
計画に従うこと よりも 変化への対応を、

価値とする。すなわち、左記のことがらに価値があることを  
認めながらも、私たちは右記のことがらにより価値をおく。

Kent Beck  
Mike Beedle  
Arie van Bennekum  
Alistair Cockburn  
Ward Cunningham  
Martin Fowler

James Grenning  
Jim Highsmith  
Andrew Hunt  
Ron Jeffries  
Jon Kern  
Brian Marick

Robert C. Martin  
Steve Mellor  
Ken Schwaber  
Jeff Sutherland  
Dave Thomas

# わが社の社是

- 会社の繁栄と社員全員の幸福が常に一致する経営を行う。
- 少数精鋭主義を貫くユニークな集団を目指し、ソフトウェア開発を通じ、社会に貢献する。
- 和を重んじ、チームプレーを中心に高効率・高利益をあげ、信用の増大を図る。

# 伝えたいこと

- アジャイルの考え方（マインドセット）
  - チームで協力して、顧客に価値を届ける。
  - 見える化とふりかえりで、フィードバックを得ながら、自ら考えて改善していくチームを作る。
- アジャイル開発はもとより、ウォーターフォールでも、医療の導入や適用支援、保守でも、管理部でも、営業でも、事業支援でも、経営でも、上の考え方は社是に近く、大切にしていきたい。

その後、数回にわたって  
天野さんに「ふりかえり」の  
ワークショップを実施中

社内リソース(^^)





KPT によるふりかえり。



KPT によるふりかえり。



あなたとつくるアジャイル

# Agile Japan 2016

あなたとつくるアジャイル

会場	日程	おじゃまする永和のメンバー
長野	6/11(土)	岡島 幸男、平田 守幸
富山	6/25(土)	伊藤 邦彦
高松	6/25(土)	平鍋 健児
宮崎	7/13(水)	天野 勝、齋藤 崇
長崎	7/30(土)	伊藤 浩一
調整中	調整中	木下 真



海外での気づき

---

# ブラジル、Ci&T社にて

- Agile Brazil 2011参加後、訪問。
- 米国との同じタイムゾーンを利用した、アジャイルアウトソース（オフショア受託開発）
- 顧客毎にチームを組み、100%アジャイル開発
- アジャイルとリーン原則を組み合わせ、現場もマネジメントも、顧客指向でチーム開発。





---

**KNOWLEDGE  
IS A TREASURE**

---



---

**BUT PRACTICE  
IS THE KEY TO IT**

---



Thomas Fuller

# 変えて行こう

- 与えられた仕事、から、気づく仕事へ。
- 自ら気づき、行動することを、価値とする文化を創ろう。
- 他人と過去は変えられない。  
自分が変わって未来をかえよう。
- ワークスタイルを変えよう、  
この業界を変えよう。

**2004**

12-09 オブジェクト倶楽部

**2005**

01-28 OSC

01-31 FITEA 合同合宿

02-04 デブサミ

03-10 富士通PST

04-21 ULSystems

04-27 富士通PST

05-19 富士通FIMAT

06-21 JavaWorldDay

06-29 オブジェクト倶楽部

07-11 富士通大阪

07-29 VANS

08-04 九州「見える化」セミナー

08-05 沖縄ITEP

08-12 ITI

08-30 SONY

09-02 JPMF

09-03 XP祭り

10-11 PMConference

10-15 フェニックス研究会

11-02 KCCS

11-22 富士通SSL

11-24 ISトップフォーラム

12-08 JavaFesta札幌

12-08 PFU

**2006**

02-01 SORUN

02-09 デブサミ

02-16 NTTData

02-17 稚内北星学園

02-20 富士通社会基盤BG

03-23 富士通FIMAT

04-13 NIS PF

05-08 PFP大阪

05-22 NEC SWQC

06-14 東芝ソリューション

07-04 専修大学

07-07 東芝SEPG

07-10 NEC関西

07-19 東レ

07-20 富士通SSL

07-26 CX

07-27 富士通護国寺

07-29 IPASEC

07-31 NEC中部

08-31 PMシンポジウム

09-08 見える化福岡

09-22 NECソフトウェア東北

09-30 XP祭り関西

10-16 NECソフトウェア九州

10-19 日本UNIXユーザ

11-09 富士通 (TPSとAgile)

11-22 NECソフト

11-24 NSソリューション

12-01 富士通長野

12-05 QuaSTom

**2007**

01-17 NTTData

02-01 Ricoh

03-02 富士通VLSI

03-20 福岡

05-11 要求開発アライアンス

05-15 関電

06-14 NEC新潟

07-12 企業研究会

08-07 アジャイルプロセス協議会

08-08 統計センター

08-30 SWEST9

10-16 日経コンピュータ

11-19 ITI

12-17 内閣官房

**2008**

02-21 にいがた産業創造機構

04-02 IBM

05-30 富士通FIP

06-13 中電CTI

06-26 ITフロンティア

07-10 日科技連

07-24 JavaKueche沖縄

08-01 パイオニア

08-19 インテック

08-28 東京エレクトロン

09-09 富士通FIP

09-10 SDNA

09-11 東京エレクトロン札幌

10-08 富士通SSL

10-11 九州PFP

11-05 トヨタ

11-14 ITA

11-26 JASPIC神戸

11-26 三菱(尼崎)

12-04 リコーソフト

12-09 日立 (戸塚)

## 2009

01-09 沖縄日立ネットワークシステムズ

01-20 ミツエーリンクス

02-10 NECソフト

02-27 IT教育サミット(豆蔵)

03-23 原電情報

04-09 QConTokyo

04-27 NTT研究所

05-23 PMフォーラム京都

06-14 PMIサマーフェスタ

07-15 PMカンファレンス

07-22 匠塾

07-23 ITA

10-07 ITI

10-15 日本総研

11-23 PFP関西

12-15 日立

## 2010

06-30 富士ゼロックス

07-02 コニカミノルタ

12-20 CEST技術セミナー

## 2011

08-26 PP&Mフォーラム

09-09 PMシンポジウム

09-09 あかねサロン

12-13 沖電気

12-15 日立製作所

## 2012

01-25 NTTデータ

02-18 PFP Party12

04-13 日立ICS

05-23 ドコモ・システムズ

08-22 SDNA

## 2013

02-13 デンソー

03-30 金沢.rb

05-10 Paperboy & Co.

07-27 トレンドマイクロ

11-07 エクサ

## 2014

10-28 セイコーEPSON

## 2015

04-22 富士通FST

05-18 中電CTI

07-28 日立

## 2016

03-25 要求開発アライアンス

04-01 永和、入社式福井

04-01 永和、入社式東京

05-31 アジャイルジャパン

  
**今日ココ**  
**(134回目)**



ご清聴ありがとうございます。  
ございました。

チームでお客様に価値を届けて行こう。